

新城市文化協会
ホームページは
▼こちら▼



新城文化

書 村田華城

編集・発行 新城市文化協会

文化祭関連

◎文化祭（文化展）……………P 2

◎文化祭（芸能祭）……………P 3

◎着付け体験を企画して……………P 4

◎祭礼能の継承と発展事業……………P 4

◎新城有教館高校生の皆さんに
参加いただきました……………P 5

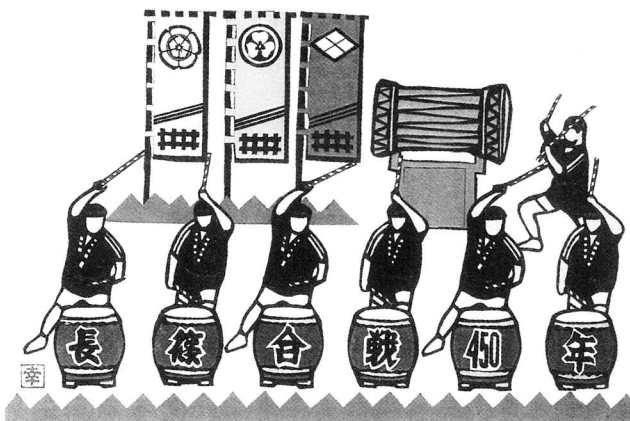
◎初心者講座小品展に出展して……………P 8

◎文化展示に代えて（万葉集巻12～巻16）……………P 7

◎新加入団体紹介（合唱団「なごみ」）……………P 5

◎東三芸能祭に参加して……………P 6

デザイン切り絵 花田 幸三



令和7年度 市民文化祭文化展

開催報告

副会長 金子 賢次(筆石)

本年度の市民文化祭文化展が去る11月1日(土)から3日(月・祝)までの3日間にわたり文化会館にて開催され大勢の市民の方に来場いただいた。今年は「長篠・設楽原の戦い」から450年にあたることから各クラブ有志にて戦いに因んだ作品の出品をお願いし、新城の貴重な歴史遺産であるこの戦いをしのんだ。

また今回初めての企画として、地元新城有教館高校美術部、写真部の生徒さんの作品の出品をお願いし、若さ溢れる力作の数々を楽しんでいた。ただけたと思う。近年、日本の伝統行事が少子高齢化などで担い手不足の時代になったと報じられるなかで、若い人たちの地道な活動の積み重ねが明日の日本の文化芸術活動への希望となれば嬉しい。

各会場の割り振りは概ね従来と同様で発表展示の概要は以下の通り。
1階は101室〜103室にて盆栽双葉会が作品展示と盆栽即売会。104室および105室にて諸流花

展。盆栽

もお花も

奥が深く

伝統の美

に心洗わ

れた思い。

南側通路

で3年ぶ

りに楽し

みにして

いた菊花

展は夏の

異常気象等

のためうま

く開花せず

本年度も

直前にやむ

なく中止と

なった。

丹精の菊

を拝見でき

なかつたこ

とは残念だ



盆栽双葉会展

ご苦労に心から感謝したい。

2階は展示室にて書道クラブと美術協会の展示。書道は「450年」

作品が多く改めてこの戦いに思いを馳せていただけたかと思う。ラウン

ジは水墨画クラブの展示。2日(日)

にはしんしろ文化財に親しむ会会員

による「ピアノ演奏による文化財展

示の試み」が初企画として行われた。

わずかな時間であったが、消えゆく

奥三河の音楽文化を懐かしむひと時

だった。休憩室はデザイン切り絵展

で多数の作品が並んだ。

3階は301室にて写真クラブ展。

構想から実写へとカメラにかける情

熱を感じた。302室は俳句展と初

出品の新城有教館高校生徒作品(美

術・写真)展。俳句展は今年も写真

クラブとのコラボ作品の出展。会場

正面の俳句・写真・書道3クラブに

よる「450年」作品が目を引き。

俳句をビジュアルに楽しむ発表形式

の工夫は

ありがた

い。新城

有教館高

校の生徒

さんの作

品はさす

がに若々

しい夢と

感性の作

品ばかり

で、感動と

驚きの声

が多かつ

た。受付

のノート



初参加の新城有教館高校 写真クラブ作品展



書道展を見学するきもの着付け体験の留学生等

なくなった日本の着物の美しさを堪能した。また、着付け体験では今年は多くの外国人のお嬢さんが晴れやかな着姿で各会場を訪問、静かな会場がパツと明るくなった。入門講座小品展は講師のご尽力で書道、パステル画、色鉛筆によるスケッチ作品の展示。出品者の方々はいわば文協入会予備軍でいずれ入会いただき共に活動できる日をお待ちしている。304室ではしんしろ文化財に親しむ会の展示。会員が分担して調査研究したもので改めて貴重な市内文化財に対する認識を深めることができた。

まずは、今年の市民文化祭文化展は無事終了した。ご来場の市民の皆様、支援いただいた市当局、準備から運営までご苦労いただいた会員諸氏に厚く感謝申し上げる。

ところで、わが文化協会も新城・鳳来・作手の3文協合併後早や19年が過ぎご多分に漏れず年々会員が減少、合併当初の3分の1を割ってしまった。少子高齢化、社会のデジタル化等の影響が大きいと思われるが、会の活動・運営に黄信号が灯つて久しい。新城の文化を絶やさないため、会員総力を挙げて今こそ一層奮起が必要な時だと強く思う。

令和7年度秋の 市民芸能祭を終えて

副会長 河合 秀明

秋のさわやかな好天に恵まれて、今年も市民芸能祭が開催されました。私も芸能部の責任者になって2年目になります。もう少しきちんとした事業計画をたてられたはずでしたが、蓋をあけてみれば、なんとミスの多かったことか。出演者の皆さんにこの場をお借りしてお詫び申し上げます。特に楽屋については、出演者数の多い団体に不便をおかけしました。もう一工夫あっても良かったと思います。

さて毎年なのですが、菅沼さんの司会進行でプログラムがスタートします。今年のトップは舞踊研究会の吾妻流闘季の会の新舞踊です。熱演に心を打たれました。次に登場するのは、今年から私たちの仲間になった、



社交ダンス ゆりの会

社交ダンスゆりの会のメンバーによる華やかな踊りです。男性は燕尾服、女性は色鮮やかなドレスで会場を魅了しました。

新城狂言同好会による「盆山」は小6の二人による演技でした。後継者を育てるには素晴らしい試みであると思います。代表の天野さんの話では、4か月位の稽古であるの長い台詞を覚えたとのこと。素晴らしい一言です。



新城狂言同好会

次は民謡研究会による息の合った踊りです。豊定会、てまり会、豊志慶会の3団体による競演は、観客を心から楽しませてくれました。

三喜流藤菊会の小山さん、竹下さん、三喜藤菊さんの日本舞踊は毎回のことながら、日本文化を感じる瞬間でもあります。

詩吟クラブでは設楽原の戦い450年にちなんで「鳥居強右衛門」を吟じていただきました。紋付袴姿での演技は素晴らしかったです。

前半最後はおことの会、遊志会の琴4重奏です。演奏してくれた「OKOTO」は古典ではないと思いますが素人の私にもわかりやすい曲でした。

ここでちょうど正午となり、昼の休憩になりました。

12時40分から午後の部です。初めは大正琴弦洲会奥三河支部の50名による大合奏から始まりました。私が高校生であった頃の舟木一夫「高校三年生」は特に心をひかれました。

そして同じく大正琴琴城流稲鳴穂会の「黒田節」へと続きます。6名の演奏ですが、音響機器をフルに活用した演奏は興味深く聴かせていただきました。

3番目は大正琴琴伝流桜洲会の「涙のリクエスト」が面白かったです。ベースを効果的に使っていました。

フラダンスが始まる前に、衆議院議員の大嶽理恵さんがおみえになり、お祝いのご挨拶をいただきました。

総勢90名のフラダンスは、50分の間、次から次へと11曲を演じました。曲ごとに衣装は変わり、観客を飽きさせない工夫が随所にみられました。笑顔で踊ることの大切さを知らされ

ましたが、簡単なことではないですね。

今回の市民芸能祭の最後を飾るのは、太鼓同好会、覇城太鼓の皆さんです。演目は「乱」。5人の一糸乱れぬ演技は、観客を舞台に釘付けにします。直径1メートル以上はあろうかと思える太鼓を全力で打ち鳴らすのは、どれほどのエネルギーがいるのかと、つい考えてしまいます。残念なことに、この覇城太鼓は今回をもって解散すること。設楽原の戦いの舞台でもある地で育った伝統ある覇城太鼓が、今後聴けなくなることは誠に残念至極です。何とか後継者を育てていただき、再びこの舞台に舞い戻ってきていただきたい。心からお願ひして、令和7年度秋の芸能祭の感想とします。



覇城太鼓

きもの体験会

きもの研究会
代表 長谷川順子

私たちきもの研究会では毎年秋に開かれる市民文化展開催中に「無料着付け体験」を行っています。今年は新近在住の外国人の方たちに、日本の着物を体験していただく「きもの体験会」を企画しました。早速募集を呼びかけるチラシを作製し、国際交流協会の方にお問い合わせをしたところ、日本語学校の先生をしてみえる方と繋げていただけました。そして思いがけず多くの方から「是非とも着物を着てみたい」と応募をいただき驚きました。皆さん着物に興味があったそうです。今回応募くださった方たちは日本語学校の生徒さん8名と技能実習生の方4名の合計12名のかわいらしい20代のお嬢さんたちです。出身国はネパール、ミャンマー、ベトナム、フィリピン、スリランカ、中国です。皆さん片言の日本語が喋れます。

さて、いよいよ体験会の始まりです。午前6名、午後6名に振袖を着せます。まずは文化会館和室に、会員が用意した振袖をズラツと並べます。そしてこの中からお嬢さんたちに好みの着物を選んでいただきます。選ぶのはワクワクして楽しいですね。さあ、着物が決まったら早速お

着替えです。私たちメンバーの腕の見せ所ですね。そして着付けが済めば今度は若い方たちお楽しみの撮影会です。館内展示を見て回りながらお気に入りの場所でカシヤ。写真部の方にもご協力をいただきました。さて、初めて着た振袖の感想は？着る前はドキドキしたけど着始めたらワクワクした。苦しくなかった。綺麗。とても楽しかった。すごく嬉しい。機会があればまた着たい。とても喜んでいただくことができました。



午前の部



午後の部

祭礼能の継承と発展事業

能楽協会(新城能楽社)
今泉 英三

まずはお詫び申し上げたいと思います。昨年度文化祭同様に今年度も新調した能装束「拾狩衣」の展示を行うよう文化展目録には「祭礼能の継承と発展事業展」と掲載しましたが事情により直前の中止となり、関係者の皆さんにご迷惑をおかけしました。

この紙面を借りてお詫びと事業の紹介をさせていただきますと思います。

新城は天正3年長篠・設楽原の戦いから450年となる歴史ロマンあふれる場所でもあります。その戦いで功績のあった奥平昌昌は、翌年の新城の落成祝に観世与三郎(後の九世観世右近太夫)を招き、城中二の丸にて祝能を催し、これが新城での能楽の始まりとなりました。

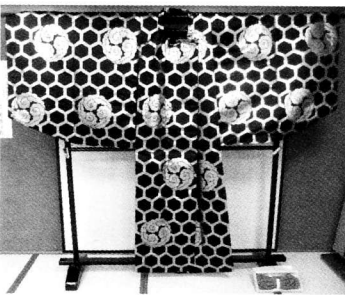
その後の代々の城主による能の愛好もあり、町民の間でも盛んに行われるようになりました。元文元年(1736)には菅沼家3代領主定用公の家督相続を祝って、富永神社祭礼時に氏子が社前に能(舞囃子)を奉納し、これが例となつて以後毎年(現在は)10月の祭礼の時に能を奉納することになり、「祭礼能」として町民により290年近く継承され

てきました。

能装束や能面は寄進などにより当初からある程度揃っていたようですが、現在は能・狂言装束あわせて200点ほど、能・狂言面は41面、能舞台も文政9年(1826)から200年ほどになり、演能者とともにこれらが三位一体となつてどの一つも欠かされたことは祭礼能が今日まで維持できたことの所以です。

しかし、時代経過とともに能装束の損耗により演能への支障が危惧されはじめました。そこで令和元年度を始点に新城自治区地域活動交付金の活用で代替能装束として「小格子厚板」「無地熨斗目」「水衣」「側次」「赤地縫箔」を新調してきました。

今年度新調した「拾狩衣」は大匠・天狗・神役などで使用されるもので紺地の絹に本金を使用した亀甲文様に(三ツ)雲巴の吉祥紋をあてた豪華なものです。これまでのものも祭礼能を継承するための地域の貴重な財産として活用していきます。



拾狩衣：紺地亀甲雲巴文様

写真クラブ・新城 有教館高校生の作品展

写真クラブ展示会は、例年より出展数が少し減りましたが、写真に俳句が入ったり、ラストランのドクタイイエローなど、力作が多く有意義な作品展示ができました。

今年から新たに新城有教館高校写真部の出展もあり、若い学生の目線から見た斬新な作品が話題になりとても良い展示会になったと思います。



写真クラブ展示

新城有教館高校生の作品



新城有教館高校生の 作品展(美術)

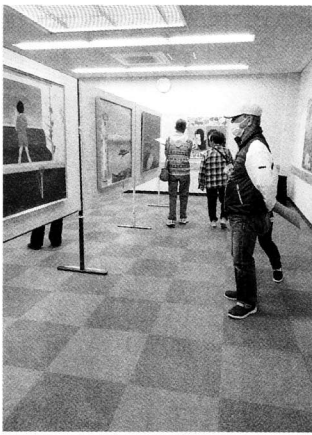
高校生の絵を見る機会は、ほとんどありませんでしたので、10代のみずみずしい感性が押し寄せてくるようでした。描き込まれた大作からは改めて「表現」は自分の心との葛藤であることを思い出させてくれました。そして、自分も表現に立ち向かうエネルギーを惜しまずに追求したいものだと思います。

― 来場者の声より ―

「私たちには想像もつかない題やとりあげる部分にびっくりしました。」
「高校時代の自分を思い出しました。今を楽しんでください。」

「伸びる力、エネルギーをいただきました。これからも、知性感性をみがいて素晴らしい作品を生み出してください。」

「生徒さんの作品に感動しました。長く続けてください。頑張つて。」



合唱団「なごみ」立ち上げ！

「なごみ」指揮者 豊崎 規正

歌には、器楽にはないいくつかの特長があります。その1、楽器を買わなくていい(サイフにやさしい)。その2、体が楽器だから、音の感動が体に直接ビンビン響く。その3、音と同時に言葉を言える(ヴァイオリンで言葉は発音できません)。そして、みんなで歌えば楽しさ倍増！それが合唱の魅力です。

世の中に「うまい合唱団」は星の数ほどあります。だから、私はそんな合唱団は作りたくないのです。私を作りたい合唱団とは、「なごみ」という名前が示すとおり、練習に来れば心が和む。練習に来れば心が元気になる。そんな合唱団です。だから、うまい合唱団は目指しません。目指すのはただ一つ。楽しい合唱団です。

そこで入団資格は、以上述べた趣旨に賛同してくれる人。歌はヘタでもOK！外国人大歓迎！「歌って目指そう日本語じょうず」。元氣じやない人大歓迎！「歌って和めば病氣も退散」！

ちなみに私は、名古屋で小さな混声合唱団(平均年齢76・5歳)を指揮して20年になります。PTAコー

ラスを指揮していたこともあります。関西に住んでいた頃は、関西学院グリーククラブの育ての親、合唱界の重鎮林雄一郎先生が指揮する合唱団に団員として籍を置いていたこともありました。

それらの活動を通して、合唱の素晴らしさを体感する一方で、この素晴らしい「合唱」と言うものが一部の愛好家にしか親しまれていないことに、残念な思いも抱いて来たのでした。声が出る人ならば、誰でも歌は歌えます。その「誰でもできる」が歌の魅力だと思います。それで、この合唱団「なごみ」を立ち上げることを思いついたのでした。



指揮をする筆者

お問い合わせ、入団お待ちしています。

連絡先..

080・9495・6573(豊崎)

県文連

芸能大会によせて

民踊研究会 松井 節子

令和7年度愛知県文化協会連合会の東三河部芸能大会が、7月6日(日)豊川市文化会館にて開催されることになりました。

県文連(略して)は、地域文化の振興を図るために、県内32の市町村文化協会の連合体として、昭和50年に設立されました。県内で唯一広域的に組織された総合文化団体です。

現在42の協会が加盟しており、傘下には約3万7千人の会員が配属しております。本連合会の主な事業としては、県内5地区で開催する芸能大会、年1回の県民茶会、愛知県美術館ギャラリーで開催する愛知県文連美術展があります。

私たち新城文化協会は東三河部に所属し、この芸能大会に参加・出演させていただいています。



また、私たち民踊研究会は、日本民踊研究会に所属し豊志慶会・豊定会・てまり会の3会から成り、新城文化協会会員として、春秋の市民芸能祭に出演させていただいています。日頃から地域との和を図り「踊りの輪を人の和に」をモットーに、生涯学習として自己研鑽に努めさせていただいています。



この5月、春の市民芸能祭を終えほっと一息ついたところです。私たちも年々、歳を重ね、踊り続けることに意義ありとの思いを胸に頑張っているところです。

令和7年度県文連に、新城市文化協会からは、民踊研究会が出演との連絡に責任の重さを痛感いたしました。

7月6日、長かった梅雨も明け、厳しい暑さの中での出演です。



県文連創立50周年記念

プログラム

- 1、(公社)豊川文化協会 コーラス (いつの日か他 2曲)
 - 2、蒲郡市文化協会 大正琴 (みかんの花咲く丘他 4曲)
 - 3、設楽町文化協会 群読 (いろいろな売り物まつりへ)
 - 4、田原市文化協会 剣詩舞 (弘道館に梅花を賞す他 5曲)
 - 5、(公財)豊橋文化振興財団 箏曲 (鷹他 2曲)
 - 6、新城市文化協会 民踊 (奄美慕情他 5曲)
 - 7、(公社)豊川文化協会 吹奏楽 (童謡メドレー他 3曲)
- と、多彩な演目が目白押しです。
- 私たちは6番で午後の一番となりました。



◎豊志慶会く望郷新相馬

く寿づくし

◎豊定会

く淡墨桜・飛騨川恋唄

◎てまり会く設楽原の古戦場

(三河武士長篠入り)

豊志慶会の息の合った美しい踊り、しつとりと踊りました。

豊定会の奄美慕情につきましては、豊定会の会長で東三支部長を務められていた中島豊定玲先生が、この4月永眠され、先生のふるさと奄美に思いを馳せ、感謝の心で踊りました。

てまり会は、設楽原の古戦場(挿入歌三河武士長篠)を踊りました。今年はあの長篠の戦いから450年という節目の年です。歴史ある新城の過去を学びまた未来への応援歌の気持ちで踊りました。

多くの関係者様スタッフ様のご尽力にて、無事、楽しく踊ることができました。愛知県民のひとりとしてさわやかな思いを胸に家路につきました。



(文化展示に代えて)

『万葉集巻12から巻16まで読み終えて』

古典読書会

例年同様「新城文化」の紙面をいただき、読書会活動の紹介をいたします。

巻12を読んで 米谷 実紀

この巻は「古今相聞往來の歌の下」といい巻11と対になっている。特徴は「羈旅に思いを発せる」という部立があることだ。霞立つ春の長日を奥処なく知らぬ山道を恋ひつつか来む

この時代の旅の多くは官命や徭役によるものだった。ぼんやりと霞立つ春の長日の果てしらぬ旅路、恋人へのとりとめのない心が伝わってくる。現にか妹が来ませる夢にかも

われか惑へる恋の繁きに

「正に心緒を述べたる」の一首だが、『伊勢物語』伊勢斎宮をめぐる段の、斎宮が昔男に贈った歌の元になった歌ということで、興味深く読んだ。

1300年も前に生きた人間の生の心に触れられる幸せを感じつつ、いま私は万葉集という深遠なる森の中を彷徨いながら歩き続けている。

巻13からみえるもの

菅 恭世

講師の亀甲先生に触発され手に取

ったのが三浦佑之著「古事記・再発見」そこに出てきた歌が

沼名川の底なる玉 求めて 得し玉かも 拾ひて 得し玉かも

あたらしき 君が 老ゆらく惜しも (巻13 3247)

万葉集は実に壮大な巻物である。

ところが本著を読むと研究者は細かい部分を研究し、論争を繰り返している。でも権威には弱い。「日本には翡翠なんてない。沼名川はどこにあるのか? いや架空の地だ」など。松本清張も「万葉翡翠」という推理小説を書き、その論争の後押しをしている。結局、考古学者による発掘調査で事実が判明するが、それでも権威はなかなか事実屈しない。万葉集研究の裏側を垣間見た気がする。事実は小説より奇なり!!

巻14を読んで 今泉眞紗子

巻14は東国で謡われた東歌を作者未詳として短歌のみの230首が収められている。西は遠江 信濃から東は陸奥までの12国の民衆の詠んだ

歌。前半は国名の明らかな勸国歌、後半は不明な未勸国歌となっている。

当時の政治や文化の中心は大和であり、都から見れば未開で辺境な地であつただろう。宮廷歌人を中心とした大和の歌と異なる題材の農村の素朴な庶民の歌、心模様である。

稲掲げば輝る吾が手を今宵もか 殿の若子が取りて嘆かむ

相聞歌の稲掲げ歌であり輝るとはあかぎれの意。国守か豪族の家の若子を思う歌。労働のつらさ娘心のあこがれは集団の願望として歌われていたのだろうか。私は幼き頃見たことのある農のあかぎれの手を思い出し、印象深い歌であつた。

巻15 遣新羅のこと 相聞歌のこと

関谷 裕治

遣新羅は、日本が朝鮮半島の新羅に646年から836年に使節を送つたもので、遣わされた一行が難波を出発して瀬戸内海を下り九州能古島・対馬を経由して新羅に向かったとされ旅の折々の風景に触れ、家族のことを思い、旅のつらさを詠んだ145首がのこされている。神祇官でもあつた中臣宅守と蔵部卿の狭野茅上娘子の神に仕える身の恋愛は許されず、宅守は越前の味真野に流刑となり、天平12年の大赦にも許されることはなかった。このことは遣新

羅の大使阿倍継麻呂に随行、外交に失敗した責任は従五位下であつた宅守にも及んでいるのではないかと、勝手に想像しているところである。

二人の相聞歌は63首あり、「さすだけの大宮人は今もかも人なぶりのみ好みたるらむ」はより理解できる歌である。

巻16を読んで 加藤 勝子

鯨魚取り海や死にする山や死にする死ぬれこそ海は潮干て山は枯れすれ この作者未詳の施頭歌はさだまさしの歌う「防人の詩」に対する答えのようです。彼の歌は海・山・風・空・春・夏・秋・冬等々超長い詩ですがこの歌に基づいていると思います。

痩せたる人をわらう歌2首

石麻呂に吾もの申す夏痩せに

よしといふ物ぞ鰻とり召せ

痩す痩すも生けらばあらむを

はたやはた鰻をとると川に流るな

大伴宿祢家持

土用の丑の日に鰻を食べることは、江戸時代、平賀源内の提案と認識していましたが、奈良万葉の昔から夏痩せに鰻が食されていたことと、家持の歌が石麻呂を心配しつつも優しさを感じられることが面白いと思いました。

初心者講座小品展

(書道)

夏目 京山

今年度の初心者講座書道展の出品者は、29名。昨年同様、色紙展と致しました。漢字、かな、どれも多種多様な作品で一人一人の個性が輝き立派な作品展となりました。多くの方に見ていただき、作品に込められた思いに心めぐらし、楽しんでいただけたと思います。力強い文字、明るい書風、元氣な言葉、美しい風景を感じさせる歌など……一心に書く皆様の様子が伝わってきました。

この小さな色紙の中に表現できることは無限です。これから、その時々感じたこと、思い付いた言葉を書きとめ表現してみると楽しいですね。家の中に作品を飾り、家族と思いを共有できるといいですね。また少し感じ方が違うのもいいものです。

1年後、皆さんの作品が、どんな形で表現されてくるのか、とても楽しみです。



色鉛筆によるスケッチ

講師 吉倉 章雄

手軽に絵を描いてみたいと思っても、紙はアルシユ、絵具はニユートンなどの高級品でなければと言われ、ちよつと!となる。まず近くのホームセンターで、手に入るもので描いてみることはじめてみましょう。

ここでの色鉛筆によるスケッチは、【基礎】という名の【お池】をぐるぐる回りながら【形を見つめる力】【画面をつくる力】【表現を工夫する力】などの基礎的な画力をつけていたと願っています。時には描くより、恥をかくの【かく】になるかもしれないけれど。この講座はいつもチャレンジです。あーでもないこーでもない話をします。色鉛筆によるスケッチ講座を始めてみましょう。

それに付随して、消しゴム、鉛筆削りなどいろいろな種類のものがあることを発見しました。生徒さんの持っている道具に私も勉強させられています。へタでもいい。「心を込めて描こう」の気持ちを大切に進めていきたいと願っています。

入門から同好会へ

パステル画初心者入門講座

講師 山本 智恵

3度目のパステル画初心者入門講座を受け持った。自身パステル画を学んだことはなく、デザインスクールでの経験を参考としたが、1度目は手さぐり状態だった。

仕事をリタイアし、子育て・介護を終え「さて何か始めよう。」とする方にはまず楽しんで学んでいただくことを第一とした。

終了後「続けたいが、これで終わりですか?」の声に、同好会を作り終了者以外でも月2回文化会館に足を運んでもらい、仲間の作品に自身の創作の刺激を受け、パステル画を続けていただけたらと思っている。

5回で入門講座は終了となるが、持続可能ならば、受け皿も大切だと1年後の皆さんの作品の上達ぶりを見て思った。



文化祭 初心者入門講座作品

編集後記

夜は冬を思わせる気温の低下、昼はまだ夏日という異常気温は短い秋を思わせますが、やはり「文化の日」を迎える前後は「文化の秋」という雰囲気。文協も日程に恵まれ11月1・2・3日の間文化祭(文化展・芸能祭)を実施できました。従って本号は、文化祭中心の報告(P2・3・4・5)となりますが、新企画も取り入れた活動の紹介もできました。本年度のテーマ「長篠・設楽原の戦い450年」に因んだ工夫が、各展示場や芸能祭の各演出の中にもご覧いただけたと思います。

本年は特に初めての企画として、新城有教館高校美術部・写真部の生徒の皆様に出展展示いただき、その迫力ある表現を観覧の皆様が鑑賞していただきました(P5)。また着物の着付体験には、応募された若い方々の着飾った姿を見ることができました(P4)。初心者講座受講生小作品展も初心とは言えない程の充実した展示もあり(P8)。展示に代えた万葉読書会の報告(P7)もご覧ください。文化祭以外でも、東三芸能祭の報告(P6)、また新入会した合唱(P5)の今後の発表にもご期待ください。(亀甲)

新城市文化協会事務局

新城市字下川1の1
☎ 23-7656